

「バリアフリーアドバイザー」が始動

登録23人 6カ所の試行的派遣も無事終了

スーパーや銀行、病院、旅館など不特定多数の人が出入りする既存の施設について、障害者や高齢者の利用を配慮したバリアフリー化を進めるため、施設の管理者からの要望に基づき、改修方法などについての助言を行う専門家「バリアフリーアドバイザー」を登録し、派遣する県の制度がこのほど動き出しました。

運営はかながわ住まい・まちづくり協会が担当し、神奈川県建築士会などからの推薦者を対象とする計四回の講習会を経て、二月十六日付で二十三人のアドバ

イザーが誕生。その実地研修の機会を提供するため協力施設を募り、三々四人のチームによる試行的派遣が二月末から三月にかけて、六カ所で行われました。

最終日となった三月十八日は、大磯町の商工会館を三人のアドバイザーが来訪。メジャーを片手に傾斜のある駐車スペース、階段を経て正面玄関に至るアプローチや、トイレの改善といった問題を解決する手立てを探り、まとまった参考プランは後日、施設管理者に手渡されるということです。

また試行的派遣には、車椅子利用者の立場から座間市内の障害者通所授産施設の山口祥太郎施設長も同行。①いまのバリアフリー対応の施設の中には、事業者・設計者の理解不足や快適性に対する思い込みから、使い勝手を悪くしているケースが少なくない②シンプルながら、どんな障害を持つ人でも問題なく使える基本性能を備えることが重要である、といった生の声が伝えられました。



正面玄関付近の改善を検討するアドバイザーら

これを受けて大磯町商工会の石井晴夫事務局長は、「大切なのは障害者の方々に温かく迎え入れる気持ちや姿勢であり、そうした視点で改善を考えることが、人間味ある施設づくりにつながるということが良く分かりました。今回のアドバイザーさんの視察と提案を踏まえ、率先して利用しやすい商工会館を目指すことはもちろん、会員の商店主に對しても情報発信して、障害者や高齢者に優しいまちづくりを一丸となつて進めていきたいですね」と、意欲をのぞかせています。



藤沢で新しいバスシステムが運行開始

1台で2台分、一度に120人超の乗客を運べる連節バスと、地域循環型のミニバスを組み合わせた新しい発想の公共交通システムが、3月14日から藤沢市西北部で始動し話題を呼んでいます。

これはまず、同エリアのターミナルとして機能する湘南台駅西口と、慶応大学湘南藤沢キャンパス間を結ぶ基幹ルートに、神奈川中央交通（本社・平塚市）が「ツインライナー」と名付けられた全長約18メートルの連節バスを導入。通常の路線バスと異なり途中停車するバス停は1カ所だけで、約3・5キロの道のりを10分程度で運行します。一方、広いバスロータリーを有する慶応大学停留所からは、従来バスが運行していなかった地域に向けて小型の「ふじみ号」＝写真＝を走らせ、市民の足を確保しようというものです。

バスはどちらもバリアフリーのノンステップ車両。先端技術のITS（高度道路交通システム）も盛り込まれ、「ふじみ号」においてはGPS車載器およびナビゲーションシステムを搭載し、運行状況や慶応大学で乗り継ぐバスの発車時刻をリアルタイムで車内表示。乗客の安心感を高めるばかりでなく、蓄積したデータをより良い運行管理やダイヤ編成に役立てることができるといいます。また「ツインライナー」の運行区間ではPTPS（公共車両優先システム）を強化し、道路の渋滞時に青信号を長くするなど状況に応じた制御を行うことで、定時運行を助けます。

湘南台駅は1999年、横浜市営地下鉄・相鉄いずみの線が小田急江ノ島線との延伸接続を果たして以来、乗降客が激増。それに伴う路線バスの増便や送り迎えのマイカーの集積などに起因して朝夕のラッシュ時は駅前を中心に深刻な渋滞が起り、バスの定時運行に支障をきたして公共交通への信頼度が低下するという悪循環を招いていました。今回、体系的にバス利便の改善が図られ、新規の利用者が定着することで、地域一帯の道路混雑の緩和や交通事故の削減といった波及効果にも期待がかかります。

まち協のマンション管理相談

月・水・金 9:00～12:00
13:00～16:00

◆4月1日から、横浜市中区のまち協事務所に窓口が移ります。来訪および電話での相談もOK。気軽にご利用ください。

直通電話 045-664-9179